

2016年10月17日

日本銀行大阪支店

記者会見冒頭説明要旨

関西経済については、前回会議時同様、「緩やかに回復している」と判断しています。

すなわち、企業部門では、輸出・生産が電子部品の増産を主因に夏場以降緩やかな増加に転じたほか、製造業を中心に前向きな設備投資計画が維持されています。家計部門では、百貨店販売が高額品を中心に減速しており、天候要因からスーパーも弱めの動きがみられるものの、外食、レジャーが堅調を持続しているほか、自動車販売に持ち直しの動きがみられます。また、住宅投資も持ち直しています。

企業マインドをみると、9月短観の業況判断DIは、全産業で前环比1ポイント改善しました。円高の影響などから大企業が悪化したものの、中堅・中小企業の改善がこれをカバーした形です。業種別にみると、製造業では、市況回復を受けた素材産業の改善を主因に2ポイント改善し、非製造業は不動産、人材派遣などの対事業所サービス、宿泊などの改善から2ポイント改善しました。先行きは、総じて保守的な回答となっています。

以下、項目別に説明します。

公共投資については、予算執行前倒しの効果などから、公共工事請負額の増加が続いており、公共工事出来高も下げ止まりつつあります。

企業部門では、7～9月の実質輸出は、スマホ向け電子部品の増産に加え、米国向け車載用電池やアジア向け半導体製造装置の増加などから、全体では前期比で若干増加する見込みです。

9月短観の16年度設備投資計画をみると、全産業で前年度比+8%と、積極的な姿勢が維持されています。特に製造業は、円高で1割強の経常減益を見込むなかでも、投資額は前环比4%上方修正され、前年度比+17%となりました。上方修正には、研

究開発施設への投資や、鉄鋼や繊維の生産設備集約化、飲食品関連の工場新設などが寄与しています。また、非製造業は、建設・不動産のビル投資、鉄道の車両更新投資などを主因に、16年度は前年度を2%上回る計画となっています。

家計部門では、個人消費は、全体としては底堅く推移していますが、天候要因もあって一部で弱めの動きもみられています。まず、明るい領域としては、ホテル稼働率が高水準で推移しており、レジャーも好調です。外食も、低価格業態へのシフトが見られつつも前年比増加基調を維持しています。また、不振が続いていた自動車販売も、軽自動車増税の影響一巡や新車投入効果もあって、ここへきて持ち直しの動きがみられます。この間、百貨店販売は、外国人向け高額品販売の減少や、株安に伴う国内富裕層向けの鈍化に加え、悪天候の影響も受けた中間層向けの不振から前年割れが続いています。スーパー販売は、7月までは改善傾向が続いていましたが、8月以降は弱めの動きがみられています。家電量販店では、白物家電の販売が底堅く推移しています。ただ、夏季の主力商品であるエアコンは、前半は猛暑効果で販売が増加したものの、後半は悪天候の影響から不冴えとなりました。

住宅投資は持ち直しています。7～8月の新設住宅着工戸数は、前年比+8%と高い伸びが続いています。貸家が前年比+17%と大幅な増加を続けているほか、持ち家、分譲戸建ても前年を上回っています。

こうした需要動向のもとで、関西の生産動向については、7～9月は、建設機械などのはん用・生産用・業務用機械が減少する一方、スマホ向け電子部品や車載用電池の輸出増加、国内自動車関連の挽回生産もあって、全体では前期比で横ばい圏内の動きとなる見込みです。

雇用面では、有効求人倍率が改善基調にあり、常用労働者数が製造業、非製造業とも前年を上回る良好な環境が続いています。所得面でも、6～7月の名目賃金は特別給与の増加を主因に前年を若干上回っています。

物価については、関西の消費者物価指数（除く生鮮食品）は、8月に前年比で0.3%下落しました。エネルギー価格の低下に加え、食料品などの値上げの動きが、昨年比に比べ弱まっていることが背景です。

関西経済の先行きについては、企業部門では、輸出が基調としては緩やかに増加するとみられるとともに、高水準の企業収益が続くもとで、積極的な設備投資計画が着

実に実行されることが期待されます。家計部門では、良好な雇用・所得環境が続くもとで、個人消費が底堅く推移するほか、住宅投資も持ち直しを続けるとみています。また、アジア諸国の所得増加が続いていることから、インバウンド需要も好調を続け、関連商品の国内販売や輸出、雇用、設備投資や不動産投資などを押し上げることが期待できます。政府の経済対策も、公共事業などを通じてプラス効果を発揮すると期待されます。

先行きの留意点としては、国際金融市場の不透明感、地政学的リスクなどが、企業や家計のマインドや支出スタンスに及ぼす影響が挙げられます。また、資源国を含む新興国経済の減速が、輸出への影響などを通じて関西経済に悪影響を及ぼさないかどうかにも留意が必要です。

以 上